

水痘（みずぼうそう）の流行について（注意喚起）

県内で水痘（みずぼうそう）の患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和5年第48週において、仙南保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が1.00人となり、注意報発表基準（1人）を超えました。

水痘は小児に多く見られる感染症です。感染の予防にはワクチン接種が有効です。定められた時期に確実に接種するなど予防に努めましょう。

— 水痘（みずぼうそう）とは —

原因：水痘帯状疱疹ウイルスにより感染する。

症状：水疱、発熱（37～40℃）

水疱は直径3～5mm程度の大きさの全身性発疹でかゆみを伴う。数日にわたり、新しい水疱が次々とできるため、紅斑、丘疹、水疱、痂皮（かさぶた）が混在し、全て痂皮化するまで6日程度かかる。通常は軽症だが、まれに重症化することがある。

好発年齢：小児に多い

潜伏期間：10～21日

感染経路：飛沫感染・・・咳やくしゃみなどによって感染する。

接触感染・・・水疱や粘膜の排出物に接触することによって感染する。

発疹出現の1～2日前から全発疹が痂皮化するまでの間、感染させる力があります。

治療：症状を緩和する対症療法が主に行われる。重症者等には、抗ウイルス薬の投与が行われることがある。

その他：口腔内に発疹ができると、食事や水分がとりにくくなるため、柔らかく刺激の少ないものを摂取する。

— 水痘（みずぼうそう）の予防 —

1 ワクチン接種が有効です。

・ 1～3歳の間に2回接種することが推奨されています。（定期接種）

・ 未接種者が発症者と接触した場合、72時間以内にワクチンを接種することで、発症を抑える、又は軽症化が期待できるとされています。接種の実施については、かかりつけ医に御相談ください。

2 家族や身近な方が感染した場合は、石けんと流水による十分な手洗いを徹底し、タオルの共用は避けましょう。

3 「咳エチケット」を徹底しましょう。

・ 咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。また、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆う。

・ 咳やくしゃみが出るときはマスクをする。

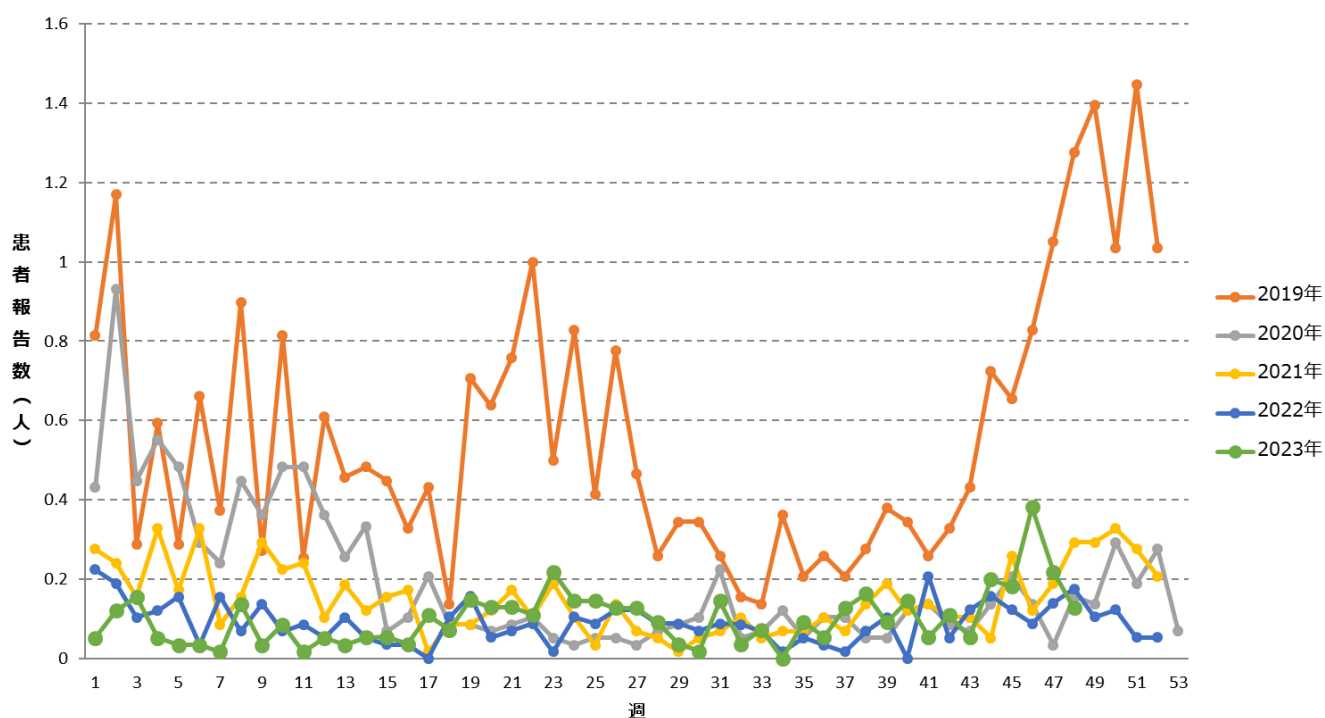
○ **患者報告数（第48週：令和5年11月27日～12月3日）**

仙南保健所管内における1定点医療機関当たり患者報告数：1.00人

宮城県内における1定点医療機関当たり患者報告数：0.13人

宮城県における1定点医療機関当たりの水痘患者報告数

(2019~2023年)



○ 参考となるホームページ

国立感染症研究所「水痘とは」 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/418-varicella-intro.html>

宮城県結核・感染症情報センター <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans//kansen-center.html>